

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第11回運営委員会議事要旨

- 1 日時：令和3年10月13日（水） 11時30分～12時30分
- 2 場所：オンライン（Web会議システム Zoom）
- 3 出席者：林（会長）、甘利（副会長）、遠藤（副会長）、佐波、大野（真城委員代理）、岡崎、長瀬、舟橋（星川委員代理）、安部（鎌田委員代理）、古賀（福島委員代理）、玄地、岡部（佐々木委員代理）、Li、岡島、石濱
陪席者：高田（セコム）、小山（NTT）、松木（産業技術総合研究所）、西田（防災科学研究所）、松本（〃）、倉谷（〃）、田代（〃）、梅本（筑波大学）、斉藤（〃）、高野（〃）、秋葉（〃）、鈴木（〃）、根本（〃）

（敬称略）

4 議事

議事に先立ち、林会長より、開会の挨拶があった。

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

【審議事項】

(1) NTT 宇宙環境エネルギー研究所の入会について

遠藤副会長から、資料1に基づき、NTT 宇宙環境エネルギー研究所からコンソーシアム入会申込書が提出された旨の説明があり、入会が承認された。続いて、NTT 宇宙環境エネルギー研究所の岡崎勝彦氏より挨拶があった。

(2) 令和3年度総会・運営委員会委員の追加について

遠藤副会長から、資料2に基づき、NTT 宇宙環境エネルギー研究所より総会・運営委員会委員として岡崎勝彦氏の選出があった旨の説明があり、原案のとおり承認された。また、以降岡崎氏の運営委員としての出席が認められた。

(3) Joint Seminar 減災との共同シンポジウム（第5回シンポジウム）の開催について

遠藤副会長から、資料3に基づき、令和4年2月14日（月）に Joint Seminar 減災との共同シンポジウムが予定されていること、並びにそのタイトル・登壇予定者等について説明があり、原案のとおり承認された。

また、現在、筑波大学でコンソーシアム運営のために措置されている予算の来年度以降の状況が未定のため、今後のシンポジウム等に係る旅費を各参画機関で負担可能かについて意見照会があり、各機関の状況が確認され、持ち帰って検討結果を報告する機関においてはメール等で事務局に報告していただくこととなった。

(4) 令和3年度活動計画について

遠藤副会長から、資料4に基づき、令和3年度年間活動計画の修正案が示され、原案のとおり承認された。第18回幹事会で候補日時が検討された次の会議日程については、今後メールにより最終的な日程調整が行われることとなった。

- 第19回幹事会・第12回運営委員会：令和4年3月7日（月）、9日（水）、または14日（月）の午後

- (5) その他
特に無し。

【報告事項】

- (1) JST「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」の申請結果について

遠藤副会長から、コンソーシアムを支援基盤組織として申請した JST「共創の場形成支援プログラム」について、面接審査の結果、残念ながら不採択となったことが報告された。今後、提案内容をブラッシュアップし、来年度、再度申請も検討することが共有された。

- (2) 第 4 回シンポジウムの申込状況・参画機関参加状況について

遠藤副会長から、資料 5-1 及び 5-2 に基づき、同日午後に開催する第 4 回シンポジウムに 200 名超の事前申し込みがあった旨の報告があった。

- (3) R2EC 情報交換会「レジリエンス研究教育推進コンソーシアムと筑波大学によるリカレント教育の実践」開催報告

遠藤副会長から、資料 6 に基づき、令和 3 年 6 月 8 日（火）に開催された情報交換会について、参加人数や実施内容等の報告があった。講演者の藤原教授、水井氏より要望のあった大学関係者とのコミュニケーションの機会を増やす仕掛けについては、大学の既存の取組みを活用しつつ、新しい仕掛けも検討していくことが確認された。

- (4) 第 17 回幹事会（R3.7.20）について

遠藤副会長から、資料 7 に基づき、令和 3 年 7 月 20 日（火）に開催された第 17 回幹事会の議事について報告があった。

- (5) その他
特に無し。

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

【審議事項】

- (1) 協働大学院教員の推挙について

岡島委員から、資料 8 に基づき、コンソーシアムから産業技術総合研究所の研究者 1 名を協働大学院教員に推挙することへの依頼があり、原案のとおり承認された。また、今後は筑波大学の人事審査フローに沿って手続きが進められることが確認された。さらに、岡島委員から、現在「情報・セキュリティ分野」を中心に各研究分野の体制強化を検討しているため、今後、各参画機関から協働大学院教員に推薦したい研究者・専門家等がいれば、随時連絡して欲しい旨の要請があった。

- (2) 紀要「リスク・レジリエンス工学研究」別冊としてのコンソーシアム活動報告の刊行について

岡島委員から、資料 9 に基づき、今年度から、学位プログラムで発行している紀要「リスク・レジリエンス工学研究」の別冊として、コンソーシアム活動報告を刊行することについて提案があり、原

案のとおり承認された。また、今後原稿執筆を依頼する際には協力を求める旨の要請があった。

また、甘利副会長から、紀要を J-STAGE 等で公開する旨の提案があり、学位プログラム内で検討を進めることとなった。

(3) その他

特に無し。

【報告事項】

(1) 令和 4 年度大学院入試（令和 3 年度実施入試）の日程について

岡島委員から、資料 10 に基づき、来年 1～2 月に実施する令和 4 年度大学院入試の日程について報告があった。また、遠藤副会長から、まだ出願が間に合うため、各参画機関で学位取得に関心のある社員・職員がいれば、情報提供して欲しい旨の要請があった。

(2) 秋学期における対面授業の実施について

岡島委員から、資料 11 に基づき、秋学期は感染拡大防止に配慮しつつ、対面授業も実施されている旨の情報共有があった。また、協働大学院教員及び非常勤講師の担当授業については、世話人教員との個別調整により実施方法を決定し、授業を行っている旨の報告があった。

(3) その他

特に無し。

以上